

庶務幹事この一年

分子科学研究所 小杉 信博

私は1994年度に評議員および庶務幹事に選ばれるまで、放射光学会がどう運営されているのか、関心外であり、総会はもちろん出たことがありませんでしたし、年会そのものも最近はほとんど参加したことがありませんでした。評議員に選ばれ、しばらくしてから井口新会長から庶務幹事にご指名があり、学会の内情に無関心だった者が執行部をつとめることは無責任だと思われましたので、固辞したのですが、他の幹事の方々の説得もあり、引き受けることにしました。しかし、前年度の幹事との引き継ぎ会には都合により出席できず、神戸年会の前に一度、新メンバーで幹事会が行われただけでしたので、初めての評議員会と総会は気の重いものになりました。評議員会では誰が評議員で誰が評議員でないのかについて頭の中に入れておらず、最初、非評議員が二、三人、会場にいたりして混乱しました。総会では、定足数(総会の成立)の確認と議長選出を庶務幹事が壇上でやらなければ会が始まらないということまで直前まで知らずにいたので、非常にあわてました。さらに、定款改定と細則改定の扱いの違いや定款改定に到った前年度の経緯を詳しくは理解していなかったため、私の説明が不十分なものになり、すんなり終了すると聞いていた総会で議論が噴出するきっかけを作ってしまったようです。そのた

め、総会が年会の懇親会に三十分以上も食い込み、関係者にご迷惑をかけてしまいました。つい最近でも、総会の開催通知を会員の皆様にお知らせするのをすっかり忘れていて、もう少しで大失態を犯すところでした。

この一年間を振り返ってみると綱渡り的な危ういことばかり思い出します。これらはすべて私個人にとっては、放射光学会について理解を深めることもでき、貴重な経験でありましたが、学会のスムーズな運営という面からはよかったかどうか甚だ疑問です。庶務幹事は学会にとって重要なポジションですので、できることなら、評議員経験者から選ばれることが好ましいと思います。特に1994年度は年度変更に関する定款改定や放射光科学合同シンポジウムの開催など、重要案件が多い年でした。放射光学会にとって非常に重要だったこの一年、評議員一年目の私が庶務幹事としての役目を果たせたと言えるのなら、それは井口会長はじめ経験豊富な他の幹事や事務局の西野さんたちのお陰です。この場を借りて感謝いたします。また、1994年度の評議員会は出席率がいつも高く、しかも手弁当で来られる方が多く、学会に関してご関心の高い評議員の皆さんにも感謝したいと思います。

行事幹事この一年

東北大学科学計測研究所 渡辺 誠

行事幹事としてこの一年間携わってきたことについて、簡単にまとめてみたいと思います。各行事、すなわちシンポジウム(94年12月)および年会・合同シンポジウム(95年1月)につきましては、学会誌第8巻第1号(1995)にそれぞれ篠野先生他および並河先生の詳しい報告がありますので、そちらを御覧下さい。

本年度まず初めにシンポジウムを企画することを考えました。井口会長の研究分野でいこうと考え、「放射光化学の最先端」というシンポジウムを開催することにしました。実行委員長に篠野先生になっていただき、行事委員が全員実行委員になり、太田先生に顧問をお願いしました。実行委員会では会場を東工大をお願いすることと日時および講演者を決めました。そして、それ以降は各人が分担した仕事を遂行して当日を迎えたわけです。関係者の努力により参加者が多く活気あるシンポジウムになりました。

学会誌第7巻3号(1994)の学会活動総合検討委員会報告にありますように、本年度は年会のもち方が従来のものから変わりました。それは、学会および放射光施設・利用者団体が合同で研究集会を持ち、学会の行事幹事が組織委員長を勤めるというものです。94年6月に各施設・団体から一名ずつでてもらい、1回目の組織委員会を開きました。本年度は、会の実行をPFおよびPF関係者をお願いすることがあらかじめ決まっていたので、実行委員長を並河先生(PF懇談会)、副実行

委員長を小林(克)先生(PF)をお願いしました。そして研究集会の名称、日時、会議の大枠等を決めました。また企業展示および予稿集の広告は組織委員が分担して依頼することとしました。これを受けて第1回実行委員会が7月に開かれました。2回目の組織委員会は9月に開きました。ここでは実行委員会からの実行計画の概要の報告を受けた後、総合講演、招待講演の候補者を色々な角度から多数推挙しました。そして具体案の作成、講演者への依頼等は実行委員会をお願いすることにしました。(従って特にプログラム委員会を設けてはおりません。)さらに次回の年会・合同シンポジウムの実行をUVSORおよびUVSOR関係者をお願いすることにしました。組織委員会開催はこの2回限りで、後のことはすべて実行委員会をお願いしました。行事幹事の私のみ組織委員会との橋渡しとして、実行委員会にも出席しました。年会・合同シンポジウムの方も関係者各位の努力により、嬉しい悲鳴をあげなければならない程参加者の多い盛会となりました。

一年を振り返ってみますと、二つの行事がいつのまにか成功裡に終了してしまったという感じがします。これは委員会に結集して下さった方々、会場を提供して下さった方々、講演者の方々、バックアップして下さった企業の方々および事務局の多大な御尽力の結果だと思えます。ここで改めて関係者の皆様に厚くお礼申し上げる次第です。

1994年度幹事報告

編集幹事この一年

お茶の水女子大学 浜谷 望

編集作業をしながらの一番の驚きは執筆者の方々が締切日をきっちり守って下さることです。たしかにその様にお願いはしているのですが、自分自身を振り返ってみると予定通りうまくいったためしがありません。遅れをださずに会誌が発行できたのは執筆して下さった方々の熱意に加えて、編集委員、事務局の皆さんのご努力の賜物と感謝しております。

今年度の編集委員会で最も重要な決定は会誌の年5回発行でした。すでにそのスケジュールで第8巻は発行されています。当面2色刷をあきらめなければならぬ財政状況ですが、第8巻第1号の出来を見て「悪くないんじゃないの」というのが編

集委員の感想でした。会員の皆さんはどうお感じになられたでしょうか。それはさておいて、さらなる中身の充実が大切だと考えています。

すでに2年間編集幹事を勤めさせていただきました。最近、雑誌というものは編集に責任をもつ人の強い個性で作られるべきものかな、と感じます。商業誌であれば間違いないのですが、学会誌はどうなのでしょう。ちょっと考えてみてもいい時期かもしれません。

本年の12月まで編集幹事を続けさせていただきます。まずは、滞りのない年5回の会誌発行が目標です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

1994年度幹事報告

渉外幹事この一年

日本電気 松井 純爾

1994年度会長の井口先生から拙宅に渉外幹事なるものを依頼したい旨のお電話を頂戴してからもう1年以上になる、一体どんな仕事をするのか不明のまま「私でお役に立つのであれば」とお引き受けした後になって実は前任者の古宮さんに仕事の中身をお尋ねしたような訳である。しかしもう

すっかり春めいた4月になって、岡崎分子研で開催された初めての幹事会で、井口先生にお目には掛かりその温厚そうなお人柄に接してからというものの安心してスタートできた、というのが正直なところである。取りあえずは5月の総会に向けて現状把握から始めて訳であるが、思えば総会のため

に訪ねた神戸の街並みが今はすっかりその様子を変えてしまったことに言葉も無い。

学会の活動は主体的なもの以外に、SPring-8建設の進捗や各放射光施設のアクティビティ向上に同期するように、外部の各種団体との共催、協賛、後援による合同開催が前年並みに推移した、アジア交流放射光フォーラムおよび第11回VUV国際会議の共同主催を決定したほか協賛9件、後援1件の合計12件の案件全体を眺めてみると、日本物理学会や日本化学会、日本結晶学会など放射光が関係しそうな主要学会は当然のこととして、

材料、表面科学分野の諸団体とも幅広い交流が行われているのが昨年あたりからの傾向である。

従来、放射光関係の不特定者に配布されていたSynchrotron Radiation News (Gordon & Breach Scientific Publishers 発行)の配付先が必ずしも適正でなかったということで、当学会と出版社との交渉で学会会員があらためて要求できるようにしたことも目立たない処理案件の一つであった。いずれにしても、大過無く次期担当者に引継できたことを素直に喜ぶたい。

1994年度幹事報告

会計幹事この一年

大阪大学産業科学研究所 磯山 悟朗

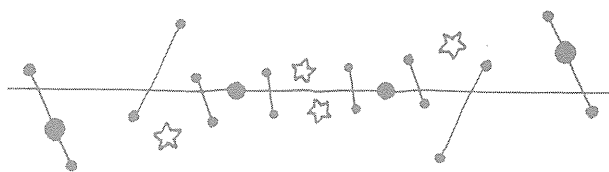
平成5年度に引き続き昨年度も会計幹事を勤めさせていただきました。昨年度は年会の形式が変更されるなど放射光学会に多くの重要な変化があり、井口会長ならびに幹事の方々は大いに活動されました。その中で会計幹事だけは一人気楽に過ごさせていただいたように思います。私に関係する所は会計年度の変更に伴うところですが、ほとんどが比例計算で解決出来ることです。会計幹事としてこの1年気にしていたことは学会の財政基盤の確立に関してでした。その件に関しては、昨年の「幹事この一年」で公言しており、何かしなければならぬと考えておりました。

現状の分析と今後の方針に関しては、学会活動総合検討委員会(大隈委員会)で議論されており、その報告は「放射光」7巻3号71頁に記載されています。そこでは正会員を増やすことにより

財政基盤を確立する方針が示されており、すでに定款の改正など様々な手が打たれております。これ以外の対策として以前から考えられていたことは、購読会員の増加です。大学や研究所などの図書館などに購読会員になってもらうと、年会費15,000円を払っていただけるばかりでなく、その書架に「放射光」が置かれることになり学会の宣伝にもなります。1995年2月現在で購読会員数は22です。一昨年、学会から各図書館に購読の願いをしました。図書経費の削減などの影響も有するとは思いますが、結果は思わしく有りませんでした。そこで、昨年度は歴代会長、評議員ならびに幹事の皆様に所属機関の図書館などに購読会員になって頂けるようお願いをしてあります。

この2年間、皆様に大変にお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。図書館や

図書室などから新規雑誌の購入希望の調査があった時にはぜひ「放射光」と書いていただくようお願いいたします。また、いろいろなご意見も有りますが、年会費の自動振込にも協力いただけるようお願いします。



バックナンバー紹介

Proceedings of the Asian Forum on Synchrotron Radiation

Kobe, Japan, May 13 (Fri.), 1994

Sponsored by Japanese Society for Synchrotron Radiation Research (JSSRR)

Japan Synchrotron Radiation Research Institute (JASRI)

体裁 B5判, 338頁

定価 5,000円 (送料込)

内容

1. Preface Toshiaki Ohta, Shigemasa Suga and Seishi Kikuta
2. Present Status of the SRRRC Facility Yuen-Chung Liu
3. The SPring-8 Project Masahiro Hara
4. Status of the PLS-Project Tong-Nyong LEE
5. The Present Status and the Future Plan of the Synchrotron Radiation Laboratory
of the Institute for Solid State Physics on the University of Tokyo Takehiko Ishii
6. Synchrotron Radiation Sources INDUS-1 and INDUS-2 S.S. Ramamurthi and G. Singh
7. Synchrotron Radiation and Free Electron Laser Activities in Novosibirsk
V.N. Korchuganov, G.N. Kulipanov, N.A. Mezentsev, A.D. Oreshkov,
V.E. Panchenko, V.F. Pindyurin, A.N. Skrinisky, M.A. Sheromov,
N.A. Vinokurov and K.V. Zolotarev
8. Present Status and Upgrading Program of the Photon Factory
Hisashi Kobayakawa, Tadashi Matsushita and Motohiro Kihara
9. The Australian National Beamline Facility at the Photon Factory
Garry Foran, David Cookson and Richard Garrett
10. Progress and Plans of Hefei Synchrotron Radiation Light Source Naiquan Liu and Xiangqi Wang